



神奈川3区国政対策委員長 前県会議員

木佐木 ただまさ

日本共産党 見解を紹介します

いのちとくらし
守る政治をご一緒に

<プロフィール>

- 神奈川大学法学部卒
- 元法律事務所職員
- よこはま健康友の会 会長
- 横浜東民商顧問
- 弓道初段 1984年生まれ

国会閉会…無責任すぎます!

6月16日、通常国会が閉会しました。

野党は、コロナ禍が収まらない中で、ましてオリンピック開催を強行しようとしていながら国会が夏休みに入っているのは迅速な対応や必要な審議が不十分なものになってしまうと3か月間の延長を提案していました。

それにもかかわらず、自公政権は会期延長を拒みながら、重要法案は不十分な審議のまま採決を強行して強引に閉会してしまいました。あまりにも身勝手、無責任のそしりを免れることはできません。

悪法オンパレード国会

今国会はまれにみる悪法のオンパレードであり、「病床削減推進法案」「高齢者医療費窓口2倍化法案」「広告規制最低投票率など穴だらけの国民投票法」「被害拡大の懸念がある電子契約書認めた特定商取引法」「国民の権利侵害の恐れがあるにもかかわらず対象も範囲も不明な重要土地利用規制法」などが強行された一方、「個人の尊厳や多様性を保障するLGBT法案」は見送られるなど、自公政権による自己責任・自助の押し付けと国民を管理するという姿勢が如実に表れています。

政権交代へ 貴重な成果も

しかし、貴重な成果も残すことができました。その一つに、コロナ対策費が予備費に丸投げされ具体化

されていなかった予算案に対して、立憲民主党と共同して36兆円に及ぶ予算組み替えを提案し、政権担当能力の一端を示すことができたことです。

また、世論と結んで入管法の改悪を阻止したことや35人学級を実現し中学校まで検討を広げさせることもできました。

強引に国会を閉会し、オリンピック開催を既定路線化させようと政府は必死に進めています。「なぜ国民の命をリスクにさらしてまで開催しようとするのか?」という極めてシンプルな問いに対して菅首相は答えることができませんでした。

コントロールすることができない自然災害と違い、人の手によって行われるオリンピック開催はリスクを回避することができるものです。安心安全と口で言いながら、その根拠を示すことができない政府に私たちの命を預けることはできません。小此木氏の市長選出馬報道で風雲急を告げる神奈川3区で必ず勝ち上がる決意です!

活動写真ニュース



左 6/20 鶴見区革新懇総会で挨拶
右 6/15 鶴見区3区野党共闘を求める市民の会宣伝

